

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 28

事業所番号	2693100022		
法人名	株式会社キャビック		
事業所名	ケアホーム すいーとハンズ向日3階		
所在地	向日市上植野町下川原46-4		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者さんの心に寄り添い一緒に生活します」を理念に掲げ、淋しい時も、嬉しい時もまず、利用者さんの気持ちに寄り添い、理解し、受け入れるケアを大切にしています。ひとりひとり、できる事を見つけ、自身へと繋げられるよう職員全員で話し合い、支援をしています。また、本社がタクシー会社であり、大型車両の手配などもでき、大人数での外出レクリエーションも対応できます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成28年11月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

向日市の旧家が並ぶ西国街道沿いにあり、小規模多機能型居宅介護事業所を併設した2ユニットのグループホームである。開設当初から地域との関係づくりに腐心してきたが、自治会に加入、夏祭りに大勢の人や子どもたちが来てくれている。家に飾った雛人形を見せてくれる旧家もある。家族は食事介助に来たり、不穩になった利用者を家に連れて帰って就寝させる等、協力的である。就任して1年弱の管理者は利用者それぞれのその人らしい生活を職員との力で支援するという理念の実践に励んでいる。管理者、職員共に介護の仕事の喜びと苦しみを感じつつ、人間としての思いをこめて、利用者との暮らしづくりに励んでいる。初詣、雛人形展覧会、お弁当をもっての花見、夏祭りで盆踊り、有名な大枝の柿狩り、冬至のゆず風呂等、利用者は季節ごとの生活文化を楽しんでいる。夫婦同居の妻が夫の食事介助に一生懸命だったり、「天ぷら食べたい」「お風呂に入りたい」等、利用者は自分流に自由に暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の心に寄り添い一緒に生活する」という理念を貼り出し、共有するようにしている。	「慈しみをもって寄り添い、その人らしい生活がこの地域で送れるように支援します」という理念を職員のアンケートをまとめて策定し、ホーム内に掲示すると共に、パンフレットに掲載し、地域への周知を図っている。利用者や家族には契約時に説明しており、新任職員にも研修をしている。理念の実践とは、認知症の利用者にゆっくりとわかりやすく言葉をかけ、気持ちや心をくみ取ること、利用者の行動や発言の意味を深く考えること等を大事にし、毎日の暮らしを支えることだと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り地域での行事、防災訓練、運動会クリーン作戦、民生委員さん主催の座談会に参加している。	自治会に加入し、クリーン作戦に協力し、利用者は袋を持って散歩し、ゴミを拾っている。自治会の運動会に見学に行っている。地域の防災訓練に参加している。大正琴、オカリナ、ハワイアン等地域のボランティアが来てくれる。地域の高齢者が参加する民生委員主催の座談会で認知症の事とホームの様子を話し、啓発と理解を図っている。ホームの行事である夏祭りには地域の人や子どもたちが大勢参加してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の徘徊模擬訓練に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議2カ月に1度開き、ホームの状況を伝え地域の方から意見をもらっている。	家族、自治会長、民生委員、市高齢介護課、地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催し、議事録は全家族に送付している。ホームからの報告のあと、意見交換している。「服薬事故は服薬管理者をおけばどうか」「火災だけでなく、地震や風水害についての避難訓練もしなければならない」等、貴重な意見をもらい、対応している。アドバイスにより、服薬事故は減っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員、包括の方の出席あり市には事故報告行い一緒に対策を考えたり、アドバイスももらっている。	市とは報告や相談等、日常的に連携をとっている。事故報告を提出した際に再発防止についてのアドバイスをもらうこともある。乙訓地域にグループホーム連絡会があり、市と管理者が年3回、情報交換している。自主的に相談し、テーマを決めての研修会や職員の交換研修、見学会等を開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月2回のミーティングで話し合いをしている。現在ベット2点柵の方1名、夜間のみベランダドア施錠の方2名おられる。	身体拘束をしないケアを契約書に明記し、毎年職員研修を実施しており、職員はスピーチロックについて認識している。日常の暮らしのなかで、不適切ケアがあった場合はお互いに注意しあっている。骨折が多い利用者に就寝時のみベッド4点柵を実施しており、検討会議録を残し、家族の同意をとっている。玄関ドア、非常口、エレベーター、ユニットの玄関ドア等、日中はすべて施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で共有、また言葉についても気をつけるよう、ミーティングで話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部勉強会への参加、声かけをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが契約時に十分な説明を心掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族に意見、要望を訊いている	毎月の面会が契約書に明記され、ほとんどの家族が毎月きており、毎日や毎週くる家族もいる。家族には季刊の『すいーとハズ向日新聞』を送付し、行事の様子を写真つきで報告している。夏祭り、クリスマス会、もちつき等ホームの行事や柿狩り等に参加する家族も多い。家族からの「職員は名札をつけないのですか」という意見に、グループホームというもののあり方を説明している。写真に名前を書いた職員の一覧表をホームの壁に貼るようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回のミーティングで職員の意見を聞き、提案を反映できるようにしている。	職員会議を毎月2回開催し、運営やケースの検討と外部研修受講者からの伝達研修をしている。会議では「服薬事故の対策として、実施者がサインをしているが、サインの点検が遅いときがある。事故防止にならない」等、積極的に意見を述べている。職員は広報、行事、ブログ等の役割を分担している。また異動、研修受講、資格取得の希望を言うことができ、資格取得については受講料の援助がある。毎年個人の目標を自己申告し、年2回の面接で励んでいる。法人は新任研修を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援規定ある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、リーダー、サブはSMBC研修へ年間のスケジュールに沿って参加。職員には外部の研修が受講できるよう声かけ、スケジュール調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓グループホーム連絡会に参加し他施設と交流、勉強会に参加したり、相互訪問の調整、声の掛け合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に関わりを持ち不安、要望を傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事を言われる事があれば、しっかり向き合い話を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の必要としている支援を見極め小規模多機能とも連携をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、役割を見つけて食事作りをしたり、洗濯物をたたんだり、スタッフも一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を行い、一緒に考え、本人を支えていけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の方には面会に来てもらっている。馴染みの場所への支援はなかなか実行に移せていない。	利用者が住んでいた家の近くの友人が面会にきてくれる。利用者が参加していたサークルでの友人が面会にきてくれる。	若いころの友人、現役時代の仕事仲間、可愛がっていた姪や甥、毎年見ていた花見の思い出の場所、夫婦で見た祭り、おいしいと気に入っていたレストラン、あの店は抜群と思ってよく食べていた和菓子等々、利用者には数多くの馴染みの人や場所、ものがあり、それを聞き出して支援することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関わりが持てるよう見守り、時には間に入り対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応しているが、こちらからの連絡等はできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意向の把握に努め、ミーティングで話し合いをしている。	利用開始時には本人、家族、利用していたケアマネジャー等から情報を収集し、フェイスシートに記入している。「衣服の着脱ができなくなっている。手伝えてほしい」「みなさんと楽しく過ごしたい」「私の話を聞いてほしい」「いろいろなことがわからなくなって心配」等、本人の率直な思いを把握している。京都市、向日市等の出身地、建築業、洋裁等本人や夫の仕事、子どもは2人等、利用者の生育歴の情報は少ない。	長い人生を送ってきた利用者がホームでどんな暮らしがしたいのか、何をもってその人らしい暮らしと言えるのか。考えるためにはその人がどんな子ども時代を送り、どんな結構生活を送ってきたのか、仕事や趣味は何か、生きがいは何か等々の情報を収集し、記録して職員が共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞き、スタッフ間で共有し、その人らしい生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間申し送りで心身状態の把握、できる事等ミーティングで話し合い共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月1度カンファレンス行い皆で話し合い、意見を反映し介護計画を作成している。	介護計画は計画作成担当者が作成し、職員会議で検討し、決定している。家族を含めたサービス担当者会議は実施していない。「利用者の子どもの時代の話聞く」「入浴は同性介助で」「好きな孫の話をする」等、身体介護のみならず、ていねいな介護計画になっている。介護記録は利用者の様子を書いているものの、介護計画を実施したかどうかは○×の点検のみである。モニタリングは3か月ごとに実施しているものの、カンファレンス記録のみで、まとめた記録を残していない。	介護計画は家族等のアイデアを入れて作成すること、介護記録は介護計画を実施したときの利用者の表情や発言、介護拒否があった場合はその要因等を記し、モニタリングの根拠になるようにすること、モニタリングは「介護の実施」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について検討し、毎月実施すること、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録と利用者ノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズ、状況に応じて支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4名の医師に往診来てもらっている。利用者の急変時は、Drに連携し受診をしている。または臨時往診がある。	利用者の従来のかかりつけ医のうち、4人の医師が往診に来て体調管理をしてくれている。家族と職員同行でかかりつけの病院に定期受診している利用者もいる。毎週訪問看護師による全利用者の体調管理を受けている。訪問歯科も利用している。認知症の受診をしている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護あり、利用者の状態伝え、適切なアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を密にし、退院後のケアにつなげている、九条Hpへは入居時に情報を送っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いを行い、事業所でできる事を十分説明をしている。	利用者の重度化や終末期に関する、ホームとしての指針を作成しており、介護事業所としてはターミナルケアを実施しないとしている。契約時に利用者や家族に説明し、同意をとっている。半分くらいの家族は特養への申し込みをしている。「最期まで見てほしい」という家族の声もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全員が受けられるよう、取り組んでいる。緊急時の対応訓練をミーティング時に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を行っている。災害時訓練は今後行っていく予定。	火災に対する避難訓練を年2回実施しており、消防署の協力により消火器の使用方法を訓練している。地震、風水害、夜間帯の避難訓練は実施していない。備蓄を準備し、ハザードマップを掲示しており、職員は危険箇所を認識している。災害時における法人内の相互協力体制の規定がある。AEDを備え、ほとんどの職員が普通救命訓練の実習を受講している。	災害は火災だけではなく、地震、風水害に対しても備えが必要である。また夜間帯は利用者の混乱が大きいので、訓練が必要である。避難訓練は職員の身につくように、年数回以上の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけを心がけているが、不適切な言葉かけがある時はミーティングで十分話し合い皆で考えている。	職員会議は見守り要員を残して会議室で行い、業務中の職員同士の連絡は小声で行う等、利用者のプライバシーに配慮している。利用者にあった声掛けや言葉遣いを心掛けている。着る服や飲み物を自己選択してもらうようにしており、表情やしぐさで判断することもある。自身で化粧する人やウィッグを使用している人もおり、おしゃれを支援している。毎月訪問理美容を利用しており、利用者自身が髪型等を注文できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いを知り、自己決定ができるような声かけを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容を利用している。毎日の服もできるだけ本人に選んでもらい、髪を結ったりの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の調理方法を利用者に相談し、一緒に作っている。役割として野菜切りや味付け、片付けも一緒に行っている。	献立は利用者に食べたいものを聞いて立てており、ユニットごとに異なっている。朝食はパンかご飯が選択できる。野菜の多い、食べなれた和食である。簡単なカロリー計算と栄養バランスの点検をしている。食材の買物、調理等利用者と一緒に行っている。職員も一緒に数人ずつ食卓を囲み、会話しながら、食事を楽しんでいる。食卓の上に飾られた花が目や心を和ませる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表をつけ状況を把握し、申し送りを行っている。食事量が少ない時は好きな物で補食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、介助により口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のタイミングに合わせ声かけ、できるだけ、トイレで排泄ができるよう支援している。	ほとんどの利用者は尿意があり、声にだしたり、表情やしぐさで示している。トイレの場所がわかりにくい人や歩行が不安定な人もあり、利用者の示すタイミングを逃さずに、職員がトイレに誘導している。多くの利用者がパットを使用しており、夜間のみ、おむつ使用の人もいる。牛乳、ヨーグルト、水分等の提供と運動で自然排便を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を飲んでもらったり、ヨーグルトを提供、散歩を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ入浴したい、というタイミングに合わせて入浴してもらっている。	お風呂が好きな利用者が多く、「お風呂に入りたい」という声が出たときは、午前でも午後でも入浴支援をしている。利用者はゆっくりと肩まで湯に浸かり、気持ちよさそうである。自慢の長い髪をシャンプーしてもらって満足そうな利用者もいる。介助の職員と会話を楽しんでいる人も多い。週に2回から3回の入浴を支援している。冬至には必ず風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こちらから眠るよう声かけする事は控え、利用者のタイミングで就寝してもらっている。眠れない時、話を聞き不安を取りのぞき、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用を知る努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗濯物を干したり、たたんだり、散歩、カラオケ、オセロ等役割、楽しみごとの支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出レクリエーションをしている。買い物も希望時はコンビニやライフに行っている。家族の協力を得て自宅へ帰る支援を行った。	ふだんは近くの西国街道や土手を散歩し、咲いている花を見たり、近所の人とあいさつしているものの、すべての利用者ではなく、毎日でもない。必要なものや食材等は職員と車でスーパー等に出かけている。向日神社での初詣、勝竜寺公園での花見、光明寺での紅葉狩り、大枝での柿狩り等季節の外出や小倉山荘での夕食、喫茶店での誕生日会等を楽しんでいる。	グループホームの利用者が最も避けなければならぬことはホームでの閉じこもりである。気候がよく、天気が好い日は毎日でも、たとえ5分でも、付近の散歩等で外気にあたり、出会った人と交流するという支援が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理している。希望により一緒に買い物に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話を希望される方は少ないが、電話で家族と話しをしてもらう等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や室温には常に配慮している。	エレベーターを上がるとユニットの玄関があり、大きな壺に季節の花と壁に名画を飾っている。廊下のガラス戸の外はベランダになっており、陽がよく当たり、プランターに花を植えている。居間兼食堂には食卓、椅子、ソファ、テレビ台にテレビと生け花等、整理整頓されすぎず、落ち着いた雰囲気である。浴室にかかったのれん、居室ごとに異なる花の写真等が居心地の良さを出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置きスタッフとゆっくり話したり、ご夫婦でソファで日なたぼっこができるような居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りなじみの物を持ってきてもらえるよう家族に相談している。	居室は洋間で、ベランダに向かってのガラス戸を開けると竹藪や土手等、四季の風景が見える。利用者はベッドにお気に入りのふとんと枕、使い慣れた筆筒、整理棚、机、椅子、衣装かけ、鏡台等を持ち込み、整理棚には愛読書、趣味の書道の道具、筆記具等が並んでいる。壁には自作のアート、家族の写真、風景画等を掛けている。仏壇を持ち込み、お花と水を供えている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、わかる事を見極め、すぐには手を出さず、そばで寄り添いその人らしい生活が送れるよう支援している。		